



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 横地常広
 編集責任者 深澤恵治
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1 令和7年度定時総会 全議案が承認されました

P2 第74回日本医学検査学会報告 +α ～臨床に貢献できる検査技師とは～

P3 長野県臨床検査技師会「災害時の臨床検査技師の派遣及び臨床検査薬等の供給に関する協定」を締結

P4 大規模災害時の支援人材育成講習会その1、その2 オンデマンド配信中！/

「血糖変動を見るタスク・シフト/シェアで拓げる糖尿病療養支援」 オンデマンド配信中！

令和7年度 定時総会

全議案が承認されました

令和7年6月28日（土）に開催された令和7年度定時総会は、出席者総数43,974名（定足数34,782名、出席率63.2%）で成立するとともに、各号議案の説明と採決の結果、全議案に対して必要な議決権を超える賛成となり、すべての議案が承認されました。出席者の内訳は以下の通りです。

	有効電磁表決	有効書面表決	当日有効出席	当日有効委任	合計
出席者数	40,723	3,229	21	1	43,974
比率	92.6%	7.3%	0.1%		100.0%

	承認する	承認しない
第1号議案 令和6年度事業報告の件	43,762	212
第2号議案 令和6年度決算の件	43,710	264
第3号議案 役員報酬等及び費用に関する規程の改定の件	43,246	728



会場の様子



横地会長挨拶



第74回日本医学検査学会 報告

+α ～臨床に貢献できる検査技師とは～

学会長 湯田 範規

(一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 理事)

(一般社団法人鳥取県臨床検査技師会 会長)

実行委員長 藤井 和晃

(一般社団法人鳥取県臨床検査技師会 副会長)



第74回日本医学検査学会は、令和7年5月10日(土)11日(日)大阪国際会議場(グランキューブ大阪)を会場として現地開催し、5月27日(火)正午～6月25日(水)正午までオンデマンド配信をいたしました。

今回の学会テーマは「+α～臨床に貢献できる検査技師とは～」とし、医師のタスクシフト、また技術的により臨床に近いところをサポートすることも含め、いろいろな場面で活躍できる臨床検査技師をイメージして企画いたしました。

学会プログラムは、一般演題506題(口演417題、示説89題)、特別企画として学会長講演、横地常広会長による基調講演、日臨技企画9題、特別講演4題、特別企画2題、教育講演8題、シンポジウム12題、ワークショップ1題、ハンズオンセミナー3領域としました。特別講演はIからIVを企画し、検査技師の認知症領域での活躍の場の提言から、当事者目線での不祥事防止策、近未来でのAIと検査技師のかかわり方まで、今後の検査技師の+αについてご提示いただきました。特別企画では大阪府臨床検査技師会(以下:大臨技)に都道府県技師会活動の役割と課題について、また石川県臨床衛生検査技師会(以下:石臨技)と鳥取県臨床検査技師会(以下:鳥臨技)の共同企画で臨床検査技師のための臨床推論についてシンポジウムを企画いたしました。日臨技企画では国際学生フォーラムや国際シンポジウムのほか、日臨技/日放技共催シンポジウム1題、日本病理学会共催シンポジウム1題、CVIT共催シンポジウム1題と他学会との共同企画をしていただきました。

私たちが知っておかなければならないこととしての医療政策リテラシーについて、学んで・知って・興味を持っていただきたく、学会実行委員会がランチョンセミナーを企画いたしました。今後も学会で私たちの社会環境について話し合う場ができることを望みます。どの会場も立ち見が出るほど盛況でした。

式典では平井伸治鳥取県知事、清水正人鳥取県医師会会長にご臨席賜りました。また、情報交換会でもお二人にご来賓としてお越しいただきました。参加された約500名の会員の皆様には鳥取県の文化・食を知って

いただき、現地開催の醍醐味を感じていただけたことと思います。

展示ブースは多くの皆様に足を運んでいただき大盛況となりました。併設した鳥取県の土産物売り場では、試食コーナーを設け、学会2日目の13時半までレジが途切れなかったとの報告を受けております。

学会参加総人数は4,727名、当日参加人数は学生、協賛企業も含め3,980名、企業展示は65社426小間でした。現地開催終了後のオンデマンド配信の参加者は747名で、会場に来られない方々のために今後も継続する価値があると思います。

鳥臨技は2024年11月に日臨技中四国支部医学検査学会を2025年5月に第74回日本医学検査学会を担当させていただきました。支部学会を担当してから半年後に全国学会を開催するという流れは、非常に大きな挑戦を伴いました。新たな試みとして全国学会の企画を担当県だけで行うのではなく、支部学術部を中心とした体制を採用しました。これにより、より幅広い視点からの意見を取り入れつつ、負担を分散させることができました。学会運営の役割はPCOと技師会の棲み分けを行い、技師会からの実務委員は必要最低限の31名で行いました。また、前日の準備作業に際しては遠方からのスタッフ派遣による職場の負担軽減も実現できました。この新たな取り組みが今後の学会運営において有益なモデルとなることを期待しています。

中四国支部の学術部門の皆様はじめ多くの方にご支援をいただき、テーマに沿った幅広い企画内容はタスク・シフト/シェア、臨地実習について今後の在り方、課題を提示できたものと考えております。

来年の第75回日本医学検査学会はIFBLSと併設で、青森県臨床検査技師会が担当されます。学会長は奥沢悦子先生(八戸市立市民病院)、実行委員長は吉田泰憲先生(独立行政法人労働者健康安全機構青森労災病院)です。会期はIFBLSが令和8年9月23日(水)～25日(金)、第75回日本医学検査学会が26日(土)・27日(日)で幕張メッセを会場に開催されます。多くの会員の皆様のご参加により盛会に開催されることを心より祈念いたします。

末筆ではございますが、本学会開催にあたり多大なるご支援とご協力を賜りました、日臨技中四国支部の皆様、大臨技の皆様、石臨技の皆様、日臨技の皆様、鳥臨技の皆様、学会運営関係の皆様、ご参加いただいた会員の皆様、協賛企業の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。



平井 鳥取知事と
カニの当選者の方々

長野県臨床検査技師会

「災害時の臨床検査技師の派遣及び臨床検査薬等の供給に関する協定」を締結

長野県臨床検査技師会 副会長 阿藤 由理

「災害時の臨床検査技師の派遣及び臨床検査薬等の供給に関する協定書」締結まで ～全国初の3者協定締結の意義～



写真左より：卸連合会・長野県・長臨技

2025年5月26日、一般社団法人長野県臨床検査技師会（会長：中山朋秋）（以下、長臨技）は、長野県と、一般社団法人日本臨床検査薬卸連合会関東甲信越臨床検査薬卸連合会と、全国初となる3者協定を締結いたしました。昨年7月、初めて県庁担当者に、協定についてお話しさせていただいてから、1年経たずに締結までこぎつけることができたのは、3者が同じ気持ちで進めてきたからだと思います。これまでの長臨技の調整について、ご紹介させていただきます。

2024年7月、執行部で長野県健康福祉部長を訪問。まず、長臨技・日臨技が、どのような団体であるかを説明し、過去の災害対応等の活動記録資料（台風災害・新型コロナウイルス感染症・能登半島地震関連）を持参して、臨床検査技師には何ができるのか、行政と協力して具体的にどんな活動を行ってきたか、また活動後も研修会などで情報の共有と更新を行っていることを説明しました。健康福祉部長はじめ、担当者の皆さんに熱心に聞いていただき、当初から3者協定を目指していた私たちに「前例がないだけで弊害がないのであれば3者協定を目指しましょう」と、前向きなご意見をいただきました。

その後の協定書案の作成段階では、書類の作成に不馴れなうえに、2者協定の資料しか手元になかった私たちに、県庁担当者が長野県内の2者・3者の協定書を多数見せてくださいました。それらを参考に、「甲・乙・丙」での書類の作り方や、長野県の協定書に見られる文言を確認・調整をしながら、卸連合会の方々とともに協議を重ねました。また行政側からは庁内で

の財務との協議で、災害時の費用負担額について概算費用の問い合わせがありました。災害レベル・避難者数・要配慮者数などなど、行政には試算する被害想定の数値がありましたが、それに必要な検査技師や検査薬等の概算費用を出すことは困難でした。そこで、能登半島地震の日臨技活動報告書より「臨床検査機器の貸し出し及び試薬提供がされた状況」の資料をもとに、卸連合会の方にご協力いただき定価ベースでの数値を出して「能登の数量を定価で計算した費用」として県担当者に提出しました。その後、協定書の完成までは、県担当者が細部まで確認・調整を行っていただき、庁内で決裁が下りたのは今年の5月半ばでした。



協定締結に向けた協議

長野県では2025年1月に、災害発生時に「医療・保健・福祉」が連携する「県保健医療福祉調整本部」を発足させる仕組みを整えました。今後は更に具体的な取り組みについて3者で協議を重ね、訓練や情報共有を通じて更に連携を深めていくことを、行政からも期待されています。

災害発生時には、「人」と「物資」が同時に動くことで、被災した長野県民に対して円滑な医療救護活動が可能となります。そのために3者の連携は必須であり、私たちが目指した3者協定は理想的だと思っています。長臨技では、まず会員に協定内容や、技師が果たす役割について知ってもらい、研修会等で理解を深め、マニュアルや連絡網の整備を行う予定です。

協定書締結までの過程も、やはり人と人との連携であったと思いますが、本当の意味で「3者協定」が生かせるように、長野県・卸連合会の皆様と協力して、平時からの顔がみえる関係性を大事にし、有事に備えて体制を強化していきたいと思っています。

大規模災害時の支援人材育成講習会 その1、その2オンデマンド配信中！

近年、震災や新興感染症の蔓延など、大規模な災害が頻発しています。こうした有事の際に、臨床検査技師が専門性を活かして支援活動に参加できる体制が必要となっています。本研修は、臨床検査技師の災害支援人材として活動できる知識習得を到達目標とし、大規模な災害発生時におけるマネジメントや情報収集、被災地外からの支援の在り方とともに、災害対策本部の運営に関する知識を学ぶことを目的に開催しています。

当会は職能団体としての社会的責任を果たすべく、大規模災害時に臨床検査技師が人的支援を行える体制の構築を目指しています。会員施設における臨床検査機能の維持、被災地の要請に応じて、J-MAT（日本医師会）や日本赤十字社などと連携し、震災や新興感染症の蔓延時に対策活動を実施しています。全国的に多くの臨床検査技師が支援活動に参加できるよう、人材育成が不可欠となります。

将来の大規模災害発生時には、本研修修了者に協力を呼びかける予定です。実際の対応可否は個々の状況によりますが、有事の際にはぜひご協力をご検討ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大規模災害時の支援人材育成講習会 その1の目的

- 災害対策本部で支援活動ができる臨床検査技師の育成
- 災害対応の原則・概念、情報管理、資源管理などの知識習得を到達目標とする

大規模災害時の支援人材育成講習会 その2の目的

- 災害支援人材として必要な知識の習得
- 大規模災害時のマネジメント、情報収集、被災地外からの支援のあり方
- 災害対策本部の運営に関する知識の習得

会 期：開催中（無期限）
申込 期 間：受付中（無期限）
受講 料：無料
点数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点
申込・受講方法：会員専用ページより①事前参加申込み
→ ②事前参加申込済一覧から受講



「血糖変動を見る タスク・シフトバシエアで拡げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信中！

テーマ：タスク・シフトによる糖尿病支援の進化 ～臨床検査技師の役割と新たな挑戦～

臨床検査技師が糖尿病管理における検査結果の活用法や患者支援の実践的な手法を習得するために、タスク・シフトの概念に基づいて医師や看護師など多職種と連携する方法や、CGMを含めた実践的な支援内容を学ぶ研修会をオンデマンド形式で開催中です。会員専用ページから事前参加申込をして、是非、ご参加ください。

会 期：令和7年7月1日（火）から10月31日（金）
申込 期 間：令和7年6月1日（日）から10月30日（木）
受講 料：1,000円（クレジット決済のみ）
点数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点

（編集後記）第74回日本医学検査学会が大盛会に終わりました。とても面白い趣向の学会であったと感じました。しかし、この気候…どうにかならないものなのでしょうか？梅雨入りした途端、恐ろしく蒸し暑い日が続き、あっという間に梅雨明け…。年々、異常気象が頻発しています。今年は雨が少なく夏の渇水が懸念されているとか…。鹿児島島のトカラ列島では1700回超の群発地震が起きており、またこれから日本中で、台風やゲリラ豪雨による災害が増えてきます。色々な情報にアンテナを張りつつ、まずは自分の体調管理を万全にしたいですね。最後に…もうすぐ参院選です。大切1票を無駄にしないよう選挙に行きましょう！

（高野）